

## 小麦「コユキコムギ」(奨励品種)

(農試 技術部・県南分場・県北分場)

### 1、来歴

この品種は昭和47年度(昭和48年5月)、東北農業試験場において「東北126号」(後のハナガサコムギ)を母とし、「ユキチャボ」を父として人工交配を行った後、昭和49年度F2で個体選抜、以降系統栽培によって選抜・固定を図ってきたものである。

育種目標は、東北126号の製粉性・耐病性(赤さび病)に、ユキチャボの耐雪性・耐湿性・短強稈性を導入しようとしたものである。

岩手県においては昭和52年以降、本場が担当する耐寒雪性特性検定試験に供試してきた。昭和55年度には「東北167号」と命名され、同年度より本分場の奨励品種決定基本調査に入れて検討したほか、昭和61年からは現地試験に供試した。その結果、特性・収量・品質について有望と認められた。

### 2、特性の概要

#### (1) 形態的特性

ア、稈長はナンブコムギに比べ約10cm短く、稈質はやや強い。穂長はやや短く、穂数はやや多い。

イ、千粒重・リットル重はやや高く、原麦の外観上の品質はキタカミコムギ・ハチマンコムギと同程度である。

#### (2) 生態的特性

ア、播種程度はⅥの秋播性で、茎立性は中程度である。出穂期はキタカミコムギ、ハチマンコムギ並である。成熟期はキタカミコムギよりやや早く、ナンブコムギより遅い。

イ、穂発芽はナンブコムギよりやや発生しやすいが、キタカミコムギよりやや発生しにくい。

ウ、耐倒伏性は、キタカミコムギ、ナンブコムギより優り、ハチマンコムギ並に強い。

エ、耐寒性、耐雪性はキタカミコムギよりやや優り、ナンブコムギよりやや劣る。

#### (3) 品質的特性

ア、粒質は硝子質で粗蛋白はやや多く、ハチマンコムギ、ナンブコムギよりやや優る。

イ、小麦粉の白さはやや高く、ナンブコムギよりやや優り、キタカミコムギと同程度である。

ウ、ゆで麺の総合評価ではキタカミコムギよりやや優るが、ナンブコムギよりやや劣る。パン適性は国内小麦品種の中では優れている。

### 3、奨励品種に採用しようとする理由

本県の小麦作付面積は3,095ha(ナンブコムギ68%、ハチマンコムギ16%、キタカミコムギ14%)で、ここ数年微増傾向にある。今後も省力性を生かした土地利用型作物として、またイネ科の冬作物であることから貴重な地力維持作物として、水田総合利用対策および高収益畑作展開の中で重要な役割を担っていくと予想される。

本県の小麦生産においてその作柄を不安定にしている大きな要因としては、寒雪害による越冬株歩合の低下と登熟期間の降雨による子実の品質低下が挙げられる。特に後者は、穂発芽や退色等の障害粒の発生だけでなく、製粉性・加工適性の低下も伴うので、業者から厳しく指摘されている。

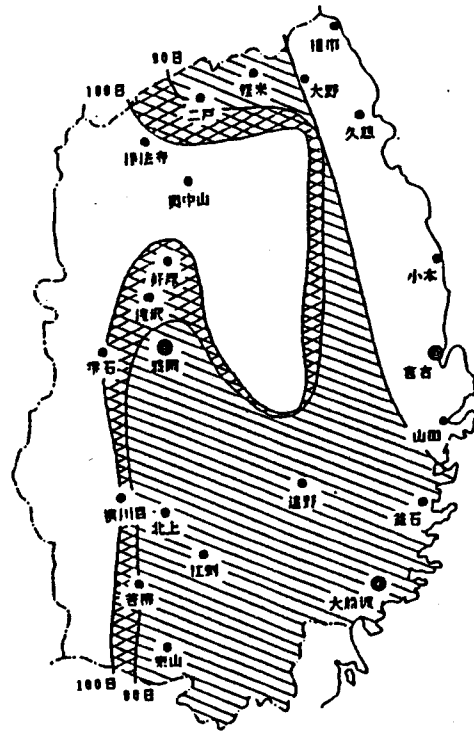
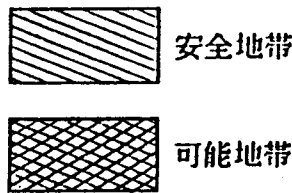
このような背景から新品種には、安定良質多収を実現するための耐倒伏性・耐寒雪性・登熟期間の降雨による子実の変質耐性、さらには低コスト化のための機械刈適応性等の諸特性の高い総合評価が求められる。

今回奨励品種編入を考える「コユキコムギ」は中生、短強稈で、赤さび病に強く、耐寒雪性・穂発芽抵抗性が本県の奨励品種である「ハチマンコムギ」、「キタカミコムギ」に比較してやや強く安定多収を得られる。また、製粉性が優れていて蛋白含量も高いことから加工用途が広く、「ハチマンコムギ」、「キタカミコムギ」におき替わっての面積拡大が期待される。

#### 4、普及見込み地帯

- (1) 北部、下閉伊の沿岸地域を除く、  
根雪期間90日以下の地帯
- (2) 見込み面積 1,000ha
- (3) 根雪期間と品種別栽培地帯区分

項目 品種	根雪期間 (日)	
	安全地帯	可能地帯
コユキコムギ	90	100
ハチマンコムギ	80	90
キタカミコムギ	70	80
ナンブコムギ	100	110



#### 5、栽培上の留意点

- (1) 雪腐病防除は計画的に実施することとし、多雪地帯（根雪期間100日以上）では作付しない。  
なお、北部および下閉伊の沿岸地域では根雪期間に問題はないが、登熟期間のやませの影響によって作柄が不安定となりやすいので作付しない。
- (2) 穂発芽等品質低下を防ぐため、適期収穫・適正乾燥に努める。
- (3) 少雪年等穂数過多が予想される場合、追肥量を減らすなど肥培管理に留意する。
- (4) 子実の開溝を生じやすい特性を持っているが、製粉性には問題がない。ただし、外観的品質を向上させるため、堆肥・土壌改良資材を施用し、土づくりに努める。
- (5) 追肥による増収効果が認められるが、時期としては減分期または出穂期の後期追肥を重点とする。なお、詳細な施肥法については現在検討中である。
- (6) 播種量は10a当り各々、ドリル播で8kg、全面全層播で10kgとする。播種時期は現行通り、地帯別播種期に従う。

#### 6、試験成績

表1 生育・収量 (昭和58~62年の5か年平均；年次は播種年次)

場所	品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏の 多少	子実重		100g (g)	千粒重 (g)	品質
								(kg/a)	(標準比%)			
本 場	コユキコムギ	5・31	7・15	84	7.7	440	1.4	47.6	154	740	39.8	3.6
	キタカミコムギ(標)	5・29	7・16	91	9.9	398	2.0	31.0	(100)	738	41.1	4.0
	ハチマンコムギ(比)	5・29	7・17	84	9.8	339	1.4	34.7	112	701	38.6	3.6
	ナンブコムギ(比)	5・27	7・11	100	10.2	407	1.6	41.5	134	742	42.5	2.6
県 南	コユキコムギ	5・21	7・1	83	7.6	430	0.8	51.5	98	776	41.3	2.7
	キタカミコムギ(標)	5・22	7・7	96	9.7	417	1.2	52.8	(100)	774	39.9	2.7
	ハチマンコムギ(比)	5・19	7・4	90	9.8	409	1.2	43.9	83	784	39.9	2.3
	ナンブコムギ(比)	5・17	6・30	95	10.2	420	3.2	41.5	79	780	43.2	2.0
県 北	コユキコムギ	5・30	7・19	96	7.7	469	0.5	48.5	100	738	39.8	3.5
	ナンブコムギ(標)	5・25	7・15	97	9.7	396	1.0	42.1	(100)	766	42.1	3.5

倒伏の多少；0=無 1=微 2=少 3=中 4=多 5=甚

品質；1=上の上 2=上の下 3=中の上 4=中の中 5=中の下 6=下